

Discover Chiba

千葉が誇る

日本一



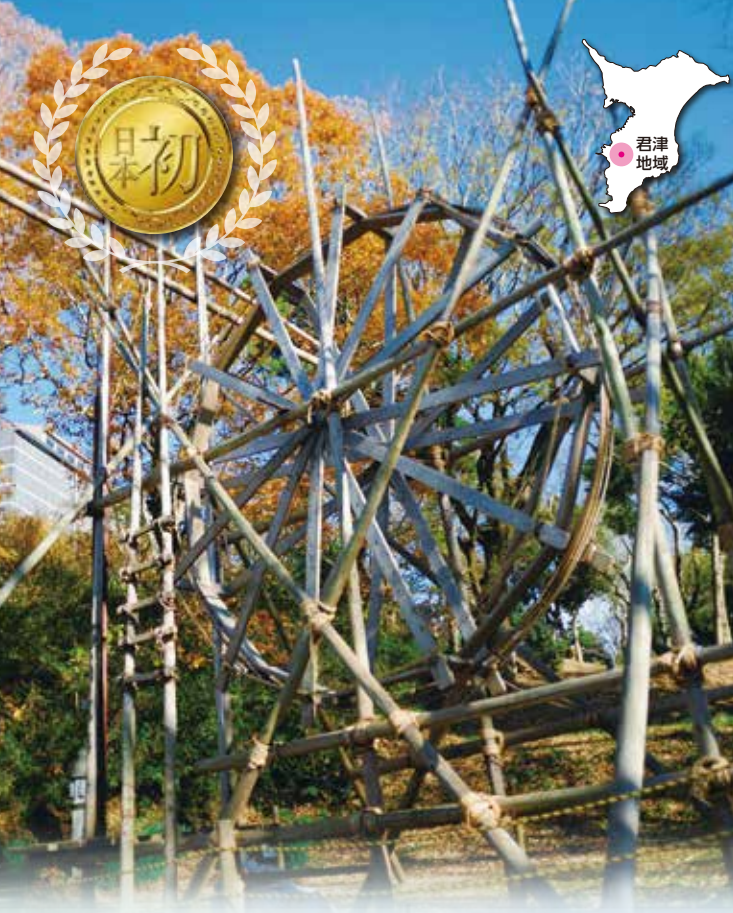
第16回

上総掘り

《今回の日本一》

・上総掘り発祥の地





日本で生まれ世界にも伝わった井戸掘り技術の「上総掘り」。 君津地域は、上総掘り発祥の地!

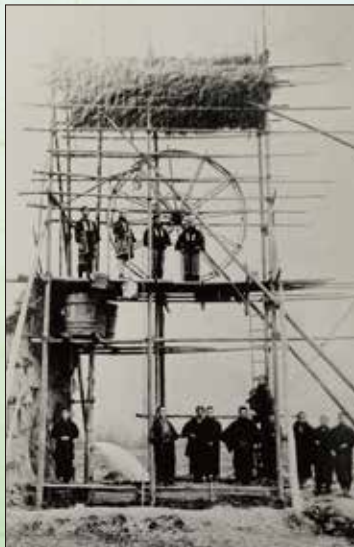
水道の蛇口をひねれば、いつでも衛生的な水が使える現代の生活。でも、水道が普及するまで、人々の生活用水を支えていたのは井戸でした。江戸時代までの井戸掘りは、人が直接穴に入って掘っていましたが、せいぜい30mが限界で、人手もかかり危険を伴うものでした。そんな大変な井戸掘りの現場に、画期的な技法として登場し、全国に普及したのが「上総掘り」という技術です。上総とは房総半島の古い地名で、君津市や袖ヶ浦市などの君津地域を指します。この一帯は、川が深い谷底を流れているため水を汲み上げるのが困難でした。水の確保には井戸が必要だったため、井戸を掘る技術も向上しました。様々な改良を重ねられ、君津地域にたくさん生えていた竹を使用した掘削手法が、「上総掘り」として発展したのは明治中期のことだと伝えられています。それまでの掘削作業には10人以上の人手が必要でしたが、「上総掘り」の技法を

使えば、2～3人の少人数で深く、安価に、そして安全に井戸が掘れることから、この技法は急速に広がっていきました。戦前から戦後の昭和30年代半ばごろまでは、湊川・小糸川・小櫃川・養老川などの西上総の河川地域で、多くの井戸職人が「上総掘り」の技法で井戸を掘り、地域で活躍していました。君津市には「上総掘り発祥の地」の碑が現在も残り、その功績が記されています。2006年(平成18年)、「上総掘り」の技術は国の重要無形民俗文化材に指定されました。



▲君津市に今も残る「上総掘り発祥地碑」

身近な道具と少人数で井戸を掘る。 これが「上総掘り」の魅力!

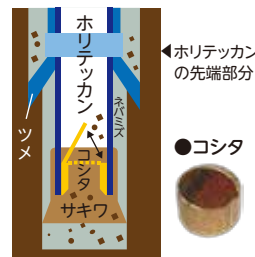


▲明治時代はかなり大掛かりな上総掘りのやぐら

「上総掘り」は、竹ヒゴ、ハネギ、ヒゴ車などといった身近な素材を使った用具に、ホリテツカン(掘鉄管)・スイコ・ノミなどの簡単な鉄の道具を融合させた井戸掘り技術です。しかも、少人数で行えて、衝撃工法を使って地下500m以上も掘り進むことができ、地下水を自噴させるとというのが最大の特徴です。

「上総掘り」を象徴する竹ヒゴを巻いた「ヒゴ車」は、掘削時には使用せず、ホリテツカン・スイコの引き下ろし、引き上げ時に「ヒゴ車」の中に人が入り、回してそれらを上げ下げする時に使われます。

●ホリテツカン(掘鉄管)の構造



●サキウ

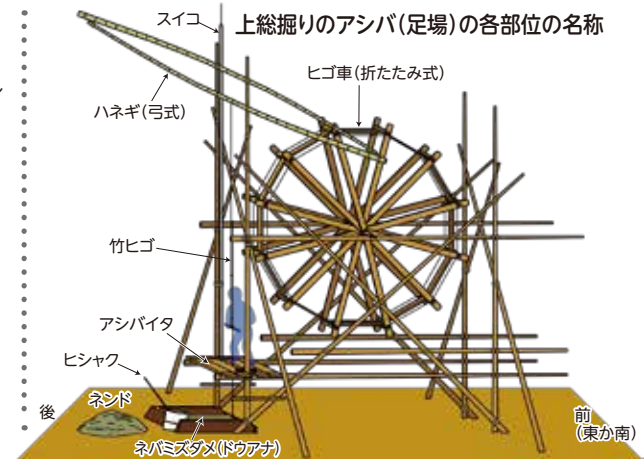


▲掘削時にホリテツカンの先端に取り付ける道具

●掘削のしくみ

ホリテツカンの先端には「サキウ」という硬い鋼が取り付けられていて、これで穴底を掘り込みます。ホリテツカンの中は空になっていて「コシタ」と呼ばれる弁が取り付けられています。コシタの弁は落ちる時に開き、引き上げられる時に閉じられ、この繰り返しによる掘削が管内に吸い込まれるしくみです。ホリテツカンの中に掘削部が溜まり、重くなると竹ヒゴを

上総掘りのアシバ(足場)の各部位の名称



「ヒゴ車」に結び、それを回してホリテツカンを引き上げます。ホリテツカンに替えて「スイコ」を結びつけて穴に入れ、底にある掘削部を取り除きます。「スイコ」にも同じく、下部に「コシタ」が取り付けられており、上げ下げして掘削部を吸い上げたら、ヒゴ車を回して「スイコ」を引き上げます。さらにまたホリテツカンに替えて掘り進みます。これらの作業を繰り返しながら穴を掘っていくのです。

上総掘りに出会えた幸せな人生。 技術指導で地元へ恩返しを!



上総掘り技術伝承者
上総掘り技術伝承研究会会長
鶴岡 正幸さん

私は昭和6年の生まれで、父親が井戸掘り職人だったので、子供の頃から父親や出入りしていた職人さんのマネをして井戸掘りごっこをして遊んでいるような幼少期を過ごしました。17歳で家業を継いで井戸掘り職人になり、袖ヶ浦市や君津市を中心に、ときには新潟の方まで依頼を受けて井戸を掘りに行ったものです。

ボーリング技術などの進歩で上総掘りによる井戸掘りの需要がなくなるまでに約200本を超える数の井戸を掘ったでしょうか。「鶴岡さんに掘ってもらっても水が出なければ諦める」と信頼されれば、絶対に成功させ喜んでもらいたいと、それがやりがいになって続けてきましたね。廃業後は公務員として



▲子供たちに「上総掘り」の指導をする鶴岡さん

平成3年まで勤務し、退職後は袖ヶ浦市郷土博物館の社会教育指導員として小学生や地域の人々に上総掘りを教えてきました。平成18年に上総掘りが国の重要無形民俗文化財に指定され、有志たちと「上総掘り技術伝承研究会」を結成しました。伝統の技法である上総掘りに興味を持って参加してくれる人はけっこういますが、1日だけの視察で終わったり、自分で掘削の仕方を覚えるとさらにその先へという方は、まだ少ないのが現状です。水不足に悩む発展途上国からの問い合わせも増えている中で、継続的に学び、上総掘りの技術を継承し、世界に役立てていける後継者が育ってくれたらと心から願っております。

上総掘りで掘削された自噴井戸が点在する名水の里、久留里。 環境省が選ぶ「平成の名水百選」に!

久留里には明治時代中期に完成した伝統技術「上総掘り」によって掘られた自噴井戸が点在し、地域に暮らす人々には無くしてはならない生活用水の源として親しまれ、大切に守られてきました。



▲雨城庵の井戸

久留里の井戸水は、清澄・三石山系の山林に降った雨が天然の地層を通過する段階でろ過され、さらに地下水脈を通り、1日24時間、四季を通じて豊富な

水がこんこんと湧き出ています。

また、毎年実施している水質検査によって、久留里の井戸水は安心安全な水と証明され、水質管理の保全がおこなわれています。

これらの井戸から湧き出る水は、水質の良さと水に含まれている有用な成分、そして飲用水として誰が飲んでも美味しいと感じることから「久留里の生きた水」と呼ばれ、県内各地から名水の噂を聞いて水を汲みに訪れる人々が後を絶ちません。街中に点在する井戸は、君津市の次世代に伝えたい20世紀遺産に指定されるとともに、平成20年6月に千葉県で唯一の「平成の名水百選」にも選ばれました。



▲井戸の脇にある「名水百選」の看板

【一般開放されている上総掘りによる名水の井戸】
・雨城庵の井戸 ・高澤の井戸 ・藤平酒造の井戸

●問い合わせ／君津市経済部観光課
TEL.0439-56-1325

「上総掘り」が国際貢献賞を受賞。

世界には、まだまだきれいで安全な水を口にするのできない国、そしてそこに暮らすたくさんの人々がいます。国の文化財である上総掘りによって井戸を掘り、水不足に悩むアジアの人々にその技



▲バグバグ小学校 井戸掘削中

術を伝承しようと1981年に、市民グループ「NPO法人上総掘りをつたえる会」が設立され、30年の活動の中でフィリピンやインドネシアのボランティアに上総掘りの技術を伝えながら、現地の小・中学校を中心に井戸を掘ってきました。「上総掘りによってきれいな水を子供たちに!」からスタートした活動は、これまでも数々の受賞を受け、国際舞台で評価されています。



▲キロキロ小学校 井戸ポンプ完成

(受賞記録 / 平成2年 千葉県文化財保護協会賞 / 平成19年 第9回日本水大賞・国際貢献賞 / 平成24年 第15回地球倫理推進賞・国際活動部門 / 平成25年 第15回日本水大賞・国際貢献賞 他多数)

●問い合わせ／

NPO法人 上総掘りをつたえる会
TEL.0438-63-1384(代表・高橋)

英国人が記した「上総掘り」が1世紀を経て対訳本発行! 『KAZUSA SYSTEM』



▲蘇った「KAZUSA SYSTEM」

今から約100年前、「上総掘り」について、英国人がインドの水不足解消に貢献できる技術としてまとめ、その著書をインドで発行していました。その名も英語で「KAZUSA SYSTEM」。著者のF・J・ノーマンは、1855年イギリス領インド生まれ。1888年来日し、旧制千葉県尋常中学校(現・千葉県立千葉高等学校)の英語教師を勤める中で「上総掘り」に出会い、

調査をしながらまとめました。「当時の上総掘りの技術を詳述した貴重な資料が邦訳されていないのは残念」として、「上総掘りを記録する会」が対訳本の発行を企画して実現しました。対訳本は「地下のめぐみと上総掘り」というシリーズの2冊目で、開催された上総掘りサミットなどをまとめた1冊目の「上総掘りの過去・現在・未来」と同時に、2009年(平成21年)に発行されました。
●問い合わせ／上総掘りを記録する会 TEL.0439-52-2143(新井)

●●●上総掘りが学べる施設●●●

用具や足場を常設展示。
上総掘りの資料展示室もおもしろい!



房総半島の東京湾岸中央部に位置する袖ヶ浦市は、上総掘り発祥の地である千葉県南部にあります。袖ヶ浦の歴史を探り、遠い未来にまで暮らしの足跡を伝えていこうと、1982年(昭和57年)に袖ヶ浦市郷土博物館が開館しました。

起伏に富んだ散策広場のある屋外には、東京湾アクアラインの開通を記念した「アクアラインなるほど館」や「移築民家」(旧進藤家住宅)、「古代住居の広場」「万葉植物園」の他、上総掘りの仕組みが体験できる足場が常設展示されています。四季折々に移り変わる自然の風景の中で、ヒゴ車やホリテッカン

- 問い合わせ/袖ヶ浦市郷土博物館 袖ヶ浦市下新田1133 TEL.0438-63-0811
- 開館時間/午前9時～午後5時 ●入館料/無料(特別展示開催時は有料)
- 休館日/月曜日・祝日の翌日(4月～11月)
- 休館日/月曜日・祝日(12月～3月)・年末年始(12月26日～1月4日)

の役割などを実際に見学してみませんか。また、博物館内展示室では、映像で袖ヶ浦の発展を見ることが出来る袖ヶ浦シアターや、歴史展示室・民俗展示室、そして写真や資料、道具



▲館内の上総掘りの展示品

や模型で学べる「上総掘り」の展示室も設けられています。資料や古写真などを駆使して、袖ヶ浦周辺で上総掘りによって井戸を掘る職人たちの活躍を紹介しています。生活用水確保のために、いかに上総掘りによる井戸掘りが重要な役割を担っていたかがよくわかり、子供から大人まで楽しく学べるように工夫されています。

また、上総掘りの技術を次代の人々に伝えるための体験も定期的に行っていますので、興味のある方は博物館までお問い合わせください。

上総掘り井戸の街・名水の里で育まれた逸品の味

- 特別純米酒「上総掘り」720ml…… ¥1,420(税込)
- もりそば…………… ¥600(税込)



城下町だった久留里はもともと酒造りが盛んな地域ですが、江戸中期の1716年(享保元年)創業の藤平酒造は、とりわけ老舗の造り酒屋。主に兵庫県産の山田錦を原料に、久留里の名水を使用した酒は、量産をしない丁寧な手造りの手法を貫いてきました。敷地内にある上総掘りの井戸水を使い、厳選した山田錦100%で仕込んだその名も「上総掘り」は、名水の里にふさわしいキリッとした風味とゆっくりと米の甘みが広がる銘酒の1本です。

- 問い合わせ/藤平酒造合資会社 君津市久留里市場 147 TEL.0439-27-2043
- 営業時間/午前8時30分～午後7時 ●定休日/毎週水曜日



ディーゼーカーが走るJR久留里線の久留里駅から商店街の路地を曲がって約5～6分歩くと辿り着く小さな蕎麦屋さん。店舗の外装はご主人が手造りで仕上げたという木肌の素朴な佇まいに、温かさが感じられます。名水の里の手打ち蕎麦をいただくこと、多くの観光客が訪れるというこの店の売りは、藤棚の藤を眺めながら蕎麦をいただける屋外席があることです。藤の花が満開になるゴールデンウィークには、新緑の風に吹かれながらの「藤見席」が満杯になるという盛況ぶり。せいろに野菜天ぷら、おにぎりが付くランチセットも人気です。

- 問い合わせ/手打ちそば処 藤美 君津市久留里市場138 TEL.0439-27-2194
- 営業時間/午前11時30分～午後8時
- 定休日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日)



知ってる? 知らない?



●上総掘り インフォメーション!

上総掘りに挑戦してみよう!

こいとゆうすい さと 小糸遊水の里



機械掘りの普及により、最近は見られなくなった上総掘りですが、ここでは掘削体験ができます。老若男女、どなたでも体験可能。房総小旅行のついでに体験する人も多いそうです。小中学生など、様々なグループも受け付けています。

- 主な活動日/不定期・お問い合わせください。
- 問い合わせ/小糸遊水の里 TEL.0439-32-2006(担当・石塚)

NPO法人久留里城山郷かざさ活性化の会



自噴井戸を目指して、上総掘りの実習を行っています。気軽に見学・体験ができます。グループでの体験実習は活動日以外でも受け付けています(事前申し込み要)。

- 主な活動日/毎月第1・第3日曜日と第2・第4土曜日
- 問い合わせ/ NPO法人久留里城山郷かざさ活性化の会事務局 TEL.0439-50-5155(担当・末原)

上総掘り技術伝承研究会



袖ヶ浦市郷土博物館の市民学芸員活動から生まれた研究団体で、国指定の「上総掘り」技術の保持・保護団体として、貴重な技術の伝承活動を行っています。「上総掘り」を知りたい、やってみたいという人は誰でも大歓迎しています。

- 主な活動日/毎月第3日曜日
- 問い合わせ/袖ヶ浦市郷土博物館 TEL.0438-63-0811(担当・光江)

取材協力・写真提供・撮影協力/袖ヶ浦市郷土博物館 上総掘り技術伝承研究会 NPO法人上総掘りをつたえる会 上総掘りを記録する会 君津市経済部観光課 藤平酒造合資会社 手打ちそば処 藤美 小糸遊水の里 NPO法人久留里城山郷かざさ活性化の会

2014.1(次回発行/2014年2月24日)



ホームページでバックナンバーもご覧いただけます。

京葉銀行 千葉の日本一 検索